

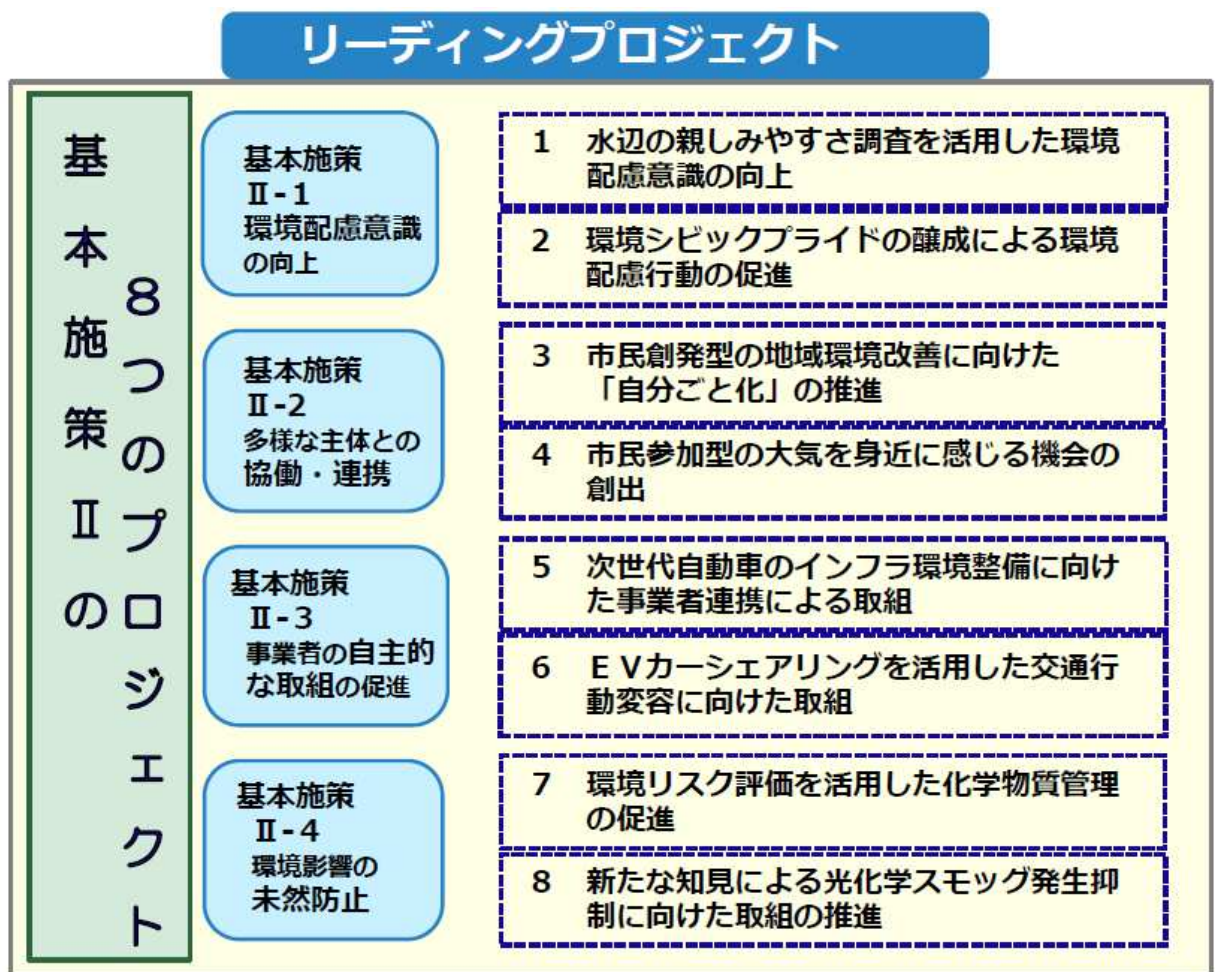
(2) リーディングプロジェクト

ア リーディングプロジェクトの役割

具体的取組のうち基本施策Ⅰは、主に法律や条例に基づく規制を中心とした環境を保全するための基盤となる取組であることから、今後も着実に各取組を推進していきます。

一方、基本施策Ⅱは、更なる環境負荷の低減や市民実感の向上を図る新たな視点による取組として、今後、効果的に進めていく必要があることから、基本施策Ⅱを推進する上で核となり、先導的な役割を果たす取組として、「リーディングプロジェクト」を設定しています。

リーディングプロジェクトは、基本施策Ⅱの「環境配慮意識の向上」、「多様な主体との協働・連携」、「事業者の自主的な取組の促進」、「環境影響の未然防止」の中で最も関連する基本施策に対応する取組として、8つのプロジェクトを位置づけていますが、その他の基本施策Ⅱの要素も含んだ取組となっています。



リーディングプロジェクトの体系図

イ リーディングプロジェクトの取組状況

＜リーディングプロジェクト 1＞

水辺の親しみやすさ調査を活用した環境配慮意識の向上【Ⅱ-1-①】



●目的

より良い環境を市民と共に創るとともに実感の向上を図るためには、市民の環境への関心や配慮意識を高め、環境配慮行動を促すことが重要です。そのため、市民が身近に感じられる河川を活用した取組により、水辺にふれあうきっかけをつくとともに水環境に係る情報を知ってもらうことで、水環境への関心を高め、環境配慮意識の向上を図ることを目指しています。

●令和6(2024)年度取組内容

【夏休み水環境体験教室】

市民が水辺に親しむ機会として、夏休み水環境体験教室を、川編(二ヶ領用水)を4回、湧水地編(黒川よこみね緑地)を4回実施しました。

◆教室で行った内容(湧水地編、川編共通)

川崎の水環境についてのお話、水の汚れを調べる実験(BODパックテスト)、「かわさき水辺の親しみやすさ調査」の紹介を行いました。



◆フィールドワーク

(湧水地編)

麻生区はるひ野にある、黒川よこみね緑地でフィールドワークを行いました。「水辺の親しみやすさ調査マニュアル」を使った水辺の評価や、緑地の保全活動を行っている「水辺のある里山を守る会」の方を講師に招き、緑地、湧水地の説明、生き物観察を行っていただきました。

(川編)

JR 宿河原駅近くの二ヶ領用水でフィールドワークを行いました。「水辺の親しみやすさ調査マニュアル」を使った水辺の評価や、環境総合研究所の職員により、投網の実演も行いました。

【SNSを活用した情報発信】

X(旧Twitter)により、水辺の親しみやすさ調査の結果を活用した、市内の水辺情報を発信しました。



<リーディングプロジェクト 2>

環境シビックプライドの醸成による環境配慮行動の促進【Ⅱ-1-②】



●目的

本市が市民・事業者・行政の連携により環境改善を図ってきた歴史や、現在の本市の環境をとりまく状況への理解を促し、地域への愛着を育てることにより、環境シビックプライド（市民の環境面の誇り）を醸成し、自ら進んで環境配慮行動をおこせる人材の育成を目指します。

●令和6（2024）年度取組内容

【出前授業】

市内の小学生等に対し8回出前授業を実施しました。出前授業では、現在良好になってきた川崎市の大気・水環境についてギガ端末を活用しながらデータ等を用いて伝えるとともに、公害の歴史や、環境改善に向けた取組について伝えました。



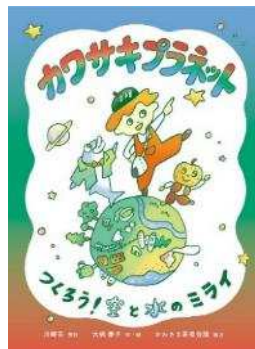
【市制100周年企画展】

市制100周年事業として、未来の環境について考え、行動するきっかけを作ることを目的として、川崎市が所蔵している写真等から環境の歴史を振り返る展示「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」を市内4会場で実施しました。



【環境啓発絵本の配布】

「川崎市大気・水環境計画」のメッセージを市民の方々にわかりやすく伝えることを目的に、「かわさき若者会議」と連携して作成した絵本を、市内の小学5年生に配布し環境啓発を行いました。



<リーディングプロジェクト 3>

市民創発型の地域環境改善に向けた「自分ごと化」の推進【Ⅱ-2-①】



●目的

日常生活では意識することが少ない大気や水などの環境を身近にとらえ、「自分ごと化」し、市民の自発的な環境配慮行動を促すため、市民等との情報共有や対話を図るとともに、市民感覚を取り入れた発想やアイデアを地域環境対策に反映する取組を推進します。

●令和6(2024)年度取組内容

【ワークショップの実施】

市民や事業者と連携したワークショップを8回実施しました。

◆「つくろう！かわさき・空と水のミライ教室」

市制100周年事業として、未来の環境を担う子どもたちを対象とし、大気・水環境に関する実験や、リサイクル品を使った工作体験をとおして、空と水、未来の環境について一緒に考えました。



◆「海辺のマイクロプラスチック探し&万華鏡づくり」ワークショップ

川崎市地球温暖化防止活動推進センター主催の第12回環境フォーラムにおいて「海辺のマイクロプラスチック探し&万華鏡づくり」ワークショップを実施しました。川崎の浜辺の砂からマイクロプラスチックを探して、そのプラスチックを材料に万華鏡を作成しました。



◆川崎市事業者・行政環境研究会ワークショップ

川崎市事業者・行政環境研究会において若手社員を中心としたワークショップを開催し、情報発信方法や事業者の環境対策に係る自主的取組について検討しました。



<リーディングプロジェクト 4>

市民参加型の大気を身近に感じる機会の創出【Ⅱ-2-①】



●目的

生活に不可欠な要素であるにも関わらず、理解することが難しい大気のきれいさを実感してもらうための市民参加型の調査を実施します。また、この調査結果を活用して、調査ガイドブックを充実させていくことにより、市民の調査への更なる参加を促します。

●令和6(2024)年度取組内容

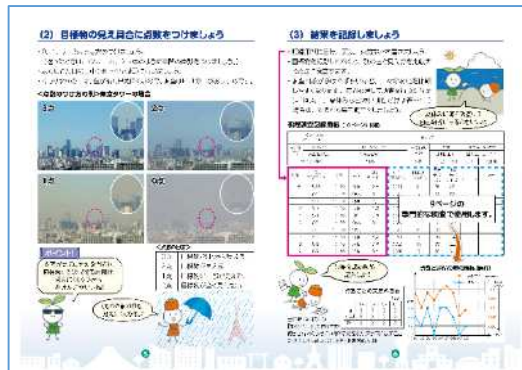
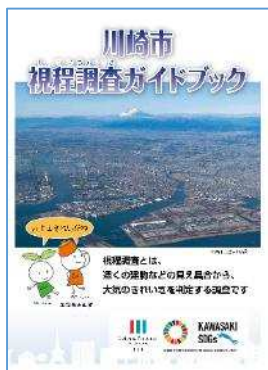
【視程調査の実施】

川崎市地球温暖化防止活動推進センター主催の「子ども環境ワークショップ」や小学校への出前授業等において視程調査を4回実施しました。



【視程調査ガイドブック】

令和4(2022)年度に作成したガイドブックを活用し、市民への普及広報を実施しました。



【キングスカイフロント星空ウォッチング in 東急 REI ホテル】

星空観察を通して大気を身近に感じてもらうことを目的として、川崎キングスカイフロント東急 REI ホテルと、かわさき宙(そら)と緑の科学館の協力の下、星空観察会「キングスカイフロント星空ウォッチング in 東急 REI ホテル」を開催しました。



<リーディングプロジェクト 5>

次世代自動車のインフラ環境整備に向けた事業者連携による取組【Ⅱ-3-①】



●目的

次世代自動車の普及に向けては、車両の導入促進と併せて、充電スタンドや水素ステーションなどインフラ環境の整備を行っていく必要があります。その両方のバランスを取りながら、次世代自動車を普及させ、大気環境の改善や脱炭素社会の実現に向けた取組みを推進します。

●令和6(2024)年度取組内容

- ◆ 公共施設への公共用の充電設備の整備を目的に、充電サービス事業者と連携し、公共施設（7施設）にEV用充電設備を設置し、供用を開始しました。
- ◆ 共同住宅へのEV普及に向けた共同住宅向けEV用充電設備の補助制度を運用し、1件（コンセント：5基）の補助を実施しました。



公共用のEV用充電設備  
(川崎市男女共同参画センター)



マンションにおける充電設備

<リーディングプロジェクト 6>

EVカーシェアリングを活用した交通行動変容に向けた取組【Ⅱ-3-①】



●目的

EV（電気自動車）カーシェアリングは、自動車の利用が必要最小限となることにより交通渋滞の緩和や渋滞に起因する事故防止などの効果があるカーシェアリングに、走行時にNO<sub>x</sub>等の大気汚染物質やCO<sub>2</sub>を排出しないEVを組み合わせることで、大気環境への影響や温室効果ガスの排出を抑制することが可能です。

実際にEVを利用して、EVの特徴である静かさや乗り心地の良さを実感していただくことで車両の購入時やカーシェアリング利用時のEV選択率の向上へとつなげていきます。

また、EV利用時におけるエコドライブを促進する取組を通じて、環境意識の醸成を図ります。

●令和6（2024）年度取組内容

- ◆ 民間企業と連携したEVカーシェアリング実証実験について、拠点を1箇所増設しました。
- ◆ 令和4（2022）年度から建築物環境配慮制度に充電設備の設置等について加点する項目を設け、引き続きEVの普及促進に取り組みました。



再エネ100%によるEVカーシェアリング

＜リーディングプロジェクト 7＞

環境リスク評価を活用した化学物質管理の促進【Ⅱ-4-①】



●目的

化学物質は、毎日の生活を維持する上で欠かせないものとなっていますが、環境や人の健康に影響を及ぼすものがあります。化学物質による環境影響を未然に防止するため、環境リスクを正しく理解するとともに化学物質の事業者による環境リスクの低減に向けた化学物質の適正管理を促進します。

環境リスクの概念図



●令和6(2024)年度の取組内容

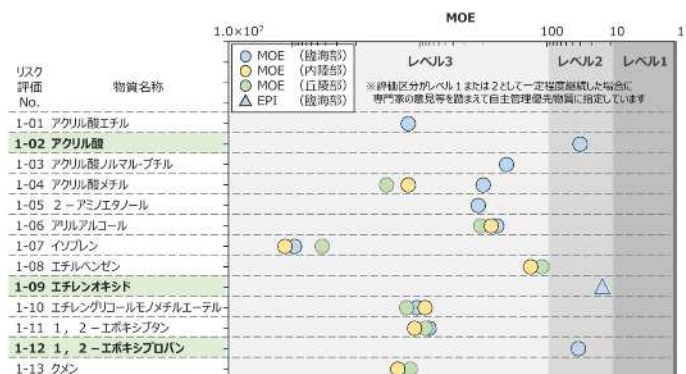
- ◆ 自主管理優先物質を取り扱う4事業者にフォローアップを行い、取り扱う自主管理優先物質の環境リスクに関する情報を提供するとともに、事業者における排出抑制手法等の環境対策を聴取し、好事例をとりまとめてホームページで発信しました。
- ◆ 川崎市環境リスク評価ガイドラインに基づき、実態調査と環境リスク評価をそれぞれ6物質について実施しました。
- ◆ 川崎市内の未規制化学物質による環境リスクの度合いについて、主な指標であるMOEやEPIを用いて図示化し、ホームページで周知しました。



自主管理優先物質に選定した物質一覧

自主管理優先物質	
排出抑制物質	排出管理物質
・なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクリル酸及びその水溶性塩</li> <li>・エチレンオキシド</li> <li>・1, 2-エポキシプロパン</li> <li>・クロム及び三価クロム化合物</li> <li>・四塩化炭素</li> <li>・ナフタレン</li> </ul>

リーフレット（化学物質の「量」と「質」に着目した取組について）



川崎市内における未規制化学物質の環境リスクの度合い

<リーディングプロジェクト 8>

新たな知見による光化学スモッグ発生抑制に向けた取組の推進【Ⅱ-4-②】



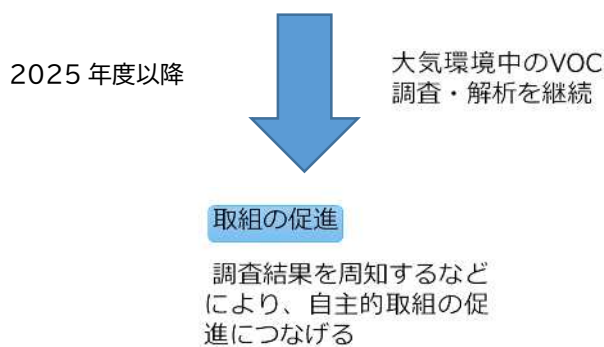
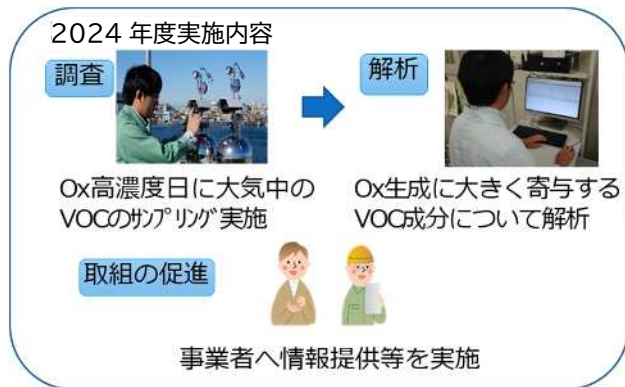
●目的

本市では、毎年光化学スモッグ注意報が発令されています。光化学スモッグは光化学オキシダントが増加することで発生し、呼吸器へ悪影響を及ぼすなど健康被害を引き起こします。そのため、原因物質のひとつである揮発性有機化合物（VOC）について、実態把握を行い、自主的な排出削減に向けた取組を進めることで、光化学スモッグの発生を抑制します。

●令和6（2024）年度取組内容

光化学オキシダントの削減を効果的に行うためには、市内及び周辺自治体においてどのVOC成分が光化学オキシダントの生成に大きく影響しているかを把握することが重要になります。

令和6（2024）年度は、光化学オキシダント（Ox）が高濃度となった際に大気環境中のVOCを調査し、Ox生成に大きく寄与するVOC成分の把握に努めるとともに、調査結果を踏まえ事業者への情報提供を実施しました。



◆ 光化学オキシダント環境改善評価指標値は低下傾向となっています（P12 参照）。指標値の推移も確認しながら、調査及び取組を進めていきます。